

マイクロコンピュータ技術情報

技術通知 V850 統合デバッグ ID850 使用制限事項の件				発行番号	Z B G - C D - 0 6 - 0 0 6 2 号	1/1
				発行日	2 0 0 6 年 7 月 1 3 日	
				発行部門	N E Cエレクトロニクス株式会社 第四システム事業本部 汎用マイコンシステム事業部 開発ツールグループ 西 林	
文書分類	○	使用制限事項	バージョンアップ		ドキュメント誤記訂正 (正誤表)	その他
関連資料	ID850 V300 統合デバッグ 操作編				資料番号: U17358JJ1V0UM00	

CP(K), O

1. 対象製品 および バージョン

対象製品名	愛称	概 要	対象バージョン
ID703000	ID850	V850 統合デバッグ	V3.10

2. 新たな制限事項

今回新たに以下の No.17 の制限事項と No.87, No.88 の注意事項を追加させていただきました。詳細については別紙を参照してください。

3. 回避策

別紙を参照してください。

4. 改善計画

今回追加した制限事項 No.17 については、次バージョンで修正予定です。(日程未定)

※ 本日程については予告なく変更する場合がございますので、改善品のリリース日程については、別途、弊社営業までお問い合わせください。

5. 制限事項および注意事項一覧

制限事項と注意事項の詳細について、別紙に記載します。

6. 発行文書履歴

V850 統合デバッグ ID850 使用制限事項の件

文書番号	発行日	記事
ZBG-CD-06-0062	2006.07.13	新規発行

以 上

ID850 制限事項一覧

ID850 V3.10 での制限事項について記載します。各項目に【XXX】と記述があるものは、その対象製品に限った制限です。

No	内容
1	ターゲット・メモリでない領域をI/Oプロテクト設定してもエラー・メッセージを表示しません。 回避策:ありません。
2	I/Oプロテクト領域設定時に、アクセス・サイズにあわないアラインで領域を設定するとプロテクトがかかりません。 回避策:ありません。
3	ウォッチ・ウインドウで、ネストあり変数のネストの中の項目の表示進数の設定がプロジェクト・ファイルから正常にダウンロードできません。 回避策:ありません。
4	エミュレーション実行中に、ローカル変数ウインドウのデータ値部分をキャレット移動させると、「**」表示になってしまいます。 回避策:ありません。
5	メモリ検索でノンマップ領域やIOR領域を避けて検索ができません。 回避策:これらの領域を避けた検索範囲を指定してください。
6	メモリ・ウインドウのアスキー表示領域にキャレットを置いていても、いったんフォーカスを失うと、キャレット位置がデータ表示領域に戻ってしまいます。 回避策: ありません。
7	プログラム実行中は、トレースとカバレッジを停止しないとトレース・データを見ることができません。 回避策:プログラムを停止してから、トレース・データを見てください。
8	使用しているイベントのステータスをExecutionからR/W(その逆も)に変更してもイベントが発生しません。 回避策:変更後に一度イベント条件をDisableにしてから再度Enableにする、またはdeleteして作成し直してください。
9	実行メニューのタイマ停止 / 開始は動作しません。 回避策:ありません。
10	【IE-703002-MC】 halt命令をStepするとデバッガがしばらくハングアップした状態になります。(30秒程度) 回避策:ありません。
11	ソース行ステップにおいて一行あたりの命令数が非常に多い場合(アセンブラ命令で1000命令以上)、ステップ実行の途中でも処理を中断する事があります。 回避策:ありません。
12	コンパイラでサポートされている外部ROM/フラッシュ再リンク機能において、ブート側からフラッシュ側の関数へステップインはできません。 回避策:フラッシュ側の関数内にブレークポイントを設定して、関数内でブレークさせてください。
13	ROM化プロセッサを通したプログラム・コードを外部 / 内蔵RAMにコピーして使うプログラムのデバッグは未サポートです。データのROM化は問題ありません。 回避策:コンパイル時にプログラム・コードはROM化プロセッサを通さないでください。
14	ウォッチ・ウインドウまたはソース・ウインドウからアクセス系ブレークを設定する場合、global変数以外に設定できません。 回避策:ありません。
15	Windowsのスタンバイ、休止状態、サスペンド機能とWindowsXPのユーザ切り替え機能には対応していません。 回避策:ありません。

No	内容
16	以下のようなメイン処理と割り込み処理で同じ関数abc_func()を呼んでいる場合 (1)から関数abc_func()へステップインを行った場合、継続してステップ実行すると、復帰時に処理5へ戻ってしまいます。本来は処理2へ戻ります。 回避策: ソース・ウインドウで混合表示にいただき、命令モードでのステップ実行を行ってください。 <pre> ***** * 汎用処理 ***** void abc_func(void) { abc_func_sub(); } void abc_func_sub(void) { : } ***** * メイン処理 ***** void main(void) { 処理1 abc_func(); <---(1) 処理2 } ***** * 割り込み処理 ***** __multi_interrupt void int_timer(void) { 処理3 処理4 abc_func(); 処理5 } </pre>
17	シンボル名（関数名や変数名、ラベル名など）を、先頭のアンダー・バーの有無などで使い分けている場合、デバグが誤認識してしまい、シンボル変換や、ブレークポイントの設定が不正になる場合があります。 例えば_resetと__resetという2つの関数が存在していた場合などが該当します。 回避策:ありません。

ID850 注意事項一覧

ID850 V3.10 での注意事項について記載します。各項目に【XXX】と記述があるものは、その対象製品に限った制限です。

No	内容
1	【V854】 エバチップの制限で、V854のSingle Chip Mode2 は未サポートです。
2	【V850/SBx】 内蔵RAM 20Kバイト以上の品種で、内蔵RAMサイズを変更した場合の動作保証はできません。 内蔵ROM/内蔵RAMサイズはデフォルトのままお使いください。
3	【IE-V850E-MC(-A), IE-703102-MC, IE-V850ES-G1, IE-V850ESK1-ET】 レジスタ・ウインドウにおいて、デバイス仕様により、DBPC, DBPSWレジスタは操作できません。
4	エバチップ仕様により、アクセス系イベントブレークはスリップします。（指定したアドレスを行き過ぎて止まります。）
5	ブレークとスナップ条件が同時発生した場合、実行前ブレークの場合でもスナップがトレース・データに記録されます。 [補足] IE-V850ESK1-ETは該当しません。
6	【IE-703102-MC】 実行中にIORイリーガル・ブレークは発生しません。
7	【IE-V850E-MC(-A), IE-703102-MC, IE-V850ES-G1, IE-V850ESK1-ET】 エバチップ仕様により、ステップ実行中にセーフ・ブレークは発生しません。
8	【IE-V850E-MC(-A), IE-703102-MC, IE-V850ES-G1, IE-V850ESK1-ET】 エバチップ仕様により、ROMマッピングのエミュレーション・メモリにライトすると、プロテクト・ブレークは起きますが内容は書きかえられてしまいます。
9	【CANコントローラ搭載製品】プログラムからプログラマブルIOR領域をアクセスするとノンマップブレークが発生します。 プログラマブルIOR領域をエミュレーション・メモリまたはターゲットのマッピングをしてください。 (ターゲット・マッピングは、ターゲット接続時のみ行えます。)
10	命令キャッシュのWay0がロックされている場合、デバッグはWay0の状態を変更しません。その為、Way0にキャッシュされている領域の命令コードを変更(ダウンロードやオンラインアセンブル)しても、プログラム実行時は、Way0にキャッシュされている変更前のプログラムが実行されます。また、Way0にキャッシュされている領域にソフトウェア・ブレークポイントを設定しても、プログラム実行時は、ソフトウェア・ブレークポイントが検出されません。 Way0がロックされている場合は、これらの操作を行わないでください。
11	PRCMDやPHCMDなどの書き込み保護に使うIORにライトする命令をStep実行した場合や、これらの書き込み保護に使うIORにライトする命令からGo実行した場合、その直後に実行される書き込み保護されたIORにライトする命令は、デバッグの命令キャッシュ対応の内部処理の影響で、命令を実行してもIORへのライトが行われません。PRCMDやPHCMDにライトする命令に対しては、これらの操作を行わないでください。
12	エミュレータでは、FLPMCレジスタのVPPビットはR/W可能となっています。 また、VPPビットデータはVPP端子の状態とは関係がなく、8ビットアクセスした場合VPPビットデータの書き換えが行われます。なお、PHCMDレジスタ(品種によってはPRCMDレジスタ)による書き換え保護は、本チップと同様に行われます。

No	内容
13	エミュレータでは,VPPビットが0の場合やVPPDISビットが1の場合であっても,フラッシュ・セルフ・プログラミングは正常に実行されますのでご注意ください。
14	フラッシュ・セルフ・プログラミング・インタフェースのコマンドを1つ実行するのに,最低でも0.3秒ほどの時間が掛かります。 フラッシュメモリ領域全体への書き込みを小さいメモリサイズで行なうと,書き込みコマンドの実行回数が非常に多くなる為,書き込み完了までに時間が掛かります。できるだけ大きなメモリサイズ(例えば1024バイト)でフラッシュメモリ領域への書き込みを行ってください。
15	コマンドを実行している間(最低でも0.3秒ほど)は,マスカブル割り込み,およびノンマスカブル割り込みは実行されません。
16	コマンドを実行する時のCPU動作クロックは8MHz以上にしてください。(分周後のCPU動作クロックが8MHz以下にならないようにしてください)。これ以下の周波数でコマンドを実行した場合,コマンドを実行している途中でユーザ・プログラムがブレイクしてしまうことがあります。
17	IE-703002-MCを使用している場合,フラッシュ・セルフ・プログラミングモードをOnにした状態では,IORイリールアクセスの検出を行ないません。
18	IE-703002-MCを使用している場合,フラッシュ・セルフ・プログラミングモードをOnにした状態では,0xF00000 ~ 0xFFFFF(最上位の1Mバイト)はノンマップアクセスの検出を行ないません。 ただし,この領域にエミュレーション・メモリやターゲット・メモリをマッピングした場合には,0xFF0000 ~ 0xFFFFF(最上位の64Kバイト)のみノンマップアクセスの検出を行ないません。
19	旧バージョン(ID850 V2.00未満)のプロジェクト・ファイルを開くことができません。
20	ソース・テキスト・ウインドウで混合表示時に逆アセンブル部の編集ができません。 アセンブル・ウインドウで編集してください。
21	ウォッチ・ウインドウで複数行を選択して行削除や基数変更ができません。 1行ずつ選択してください。
22	ウォッチ・ウインドウの最大表示行数は,10000行です。
23	周辺IOR選択ダイアログで複数行を選択して行のUp/Downができません。 1行ずつ選択してください。
24	ダウンロードまたはプロジェクト・ファイルのロードを行うと,ハードウェア・ブレイクポイントまたはイベントが命令の途中でずれることがあります。 ブレイクポイントまたはイベントをいったん削除して再設定してください。
25	デバッグ情報のないモジュール・ファイルにソフトウェア・ブレイクポイントを設定している状況で,ダウンロードまたはプロジェクト・ファイルのロードを行うと,ソフトウェア・ブレイクポイントが削除されます。 ブレイクポイントを再設定してください。
26	CPUリセット後にプロジェクト・ファイルを保存するとリセットされたMM*レジスタ等の値が保存されるため,次回プロジェクトを開いた時にダウンロードで失敗する可能性があります。 * 外部メモリ空間にアクセスする為に設定が必要なIORレジスタは,品種により異なります。 [補足] オンライン・ヘルプまたはユーザズ・マニュアル「ID850 V3.00 統合デバッガ 操作編」付録・拡張ウインドウの“ Hook ”を利用しますと,ダウンロード前に周辺I/Oレジスタの設定が可能になります。
27	デバッガ起動時に選択した品種は,起動後に変更できません。また,品種の異なるプロジェクト・ファイルをダウンロードしても,プロジェクト・ファイルで指定した品種にはなりません。
28	ウインドウ内の1行に400文字(ANK文字)以上あるとき,400文字目以降を表示できません。
29	Cソースファイル(1ファイル)の行数として指定できる数は65536行までです。
30	ソース・テキスト・ウインドウで検索可能な文字列の最大長は150文字(ANK文字)です。
31	逆アセンブル表示は,同一アドレスで別名の周辺I/Oレジスタを区別して表示できません。
32	逆アセンブル・ウインドウで上方向(アドレス減少方向)にスクロールした時,不正なニーモニックを表示することがあります。
33	逆アセンブル・ウインドウで検索可能な文字列の最大長は150文字(ANK文字)です。
34	五次元以上の配列をサポートしていません。

No	内容																									
35	カレント関数のローカル変数を取得する場合,PC が関数の実体内(プロローグ/エピローグ以外)にない場合,ローカル変数の情報を得ることはできません。																									
36	メモリ・ウィンドウで検索可能な文字列の最大長は150文字(ANK文字)です。																									
37	デバッグ起動時にカバレッジデータの初期化を行ないませんので,カバレッジ測定前にカバレッジデータの初期化を行ってください。 [補足] IE-V850ESK1-ETは該当しません。																									
38	トレース・ウィンドウのタイム・タグの最大値は65535です。この値になっている時は値がオーバーフローしています(特にタイム・タグの積算表示をしている場合)。拡張オプション・ダイアログのトレース・ウィンドウのタイム・タグ表示で使用するカウンタの分周率を変更できます。																									
39	ステップ実行時のトレース・タイムタグ値は,かなり大きな値が入ります。																									
40	区間トレースとクオリファイ・トレースはイベント・リンク条件(統合イベント)を使用して作成できません。																									
41	トレースディレイの仕様がID850とSM850とで異なります。 【ID850】 ディレイ要因となるイベントは,"Trace End"で設定したイベントです。この場合,「条件トレース」で実行した場合のみディレイフレームが発生します。ディレイ要因となったフレーム(ディレイトリガフレーム)には,ポイントマーク表示エリアには"T"が表示されます。また,ディレイフレームには,トレースモード表示エリアに"D"が表示されます。 <table><tr><td>T</td><td>tttt</td></tr><tr><td>D</td><td>dddd</td></tr><tr><td>D</td><td>dddd</td></tr><tr><td>D</td><td>dddd</td></tr><tr><td>D</td><td>dddd</td></tr></table> tttt:ディレイトリガフレーム dddd:ディレイフレーム 【SM850】 ディレイ要因となるイベントは,"Delay Trigger"で設定したイベントです。この場合,「無条件トレース」で実行した場合のみディレイフレームが発生します。ディレイ要因となったフレームには,ポイントマーク表示エリアに"D"が表示されます。また,ディレイフレームには,トレースモード表示エリアに"A"が表示されます。 <table><tr><td>T</td><td>D</td><td>tttt</td></tr><tr><td></td><td>A</td><td>dddd</td></tr><tr><td></td><td>A</td><td>dddd</td></tr><tr><td></td><td>A</td><td>dddd</td></tr><tr><td></td><td>A</td><td>dddd</td></tr></table>	T	tttt	D	dddd	D	dddd	D	dddd	D	dddd	T	D	tttt		A	dddd		A	dddd		A	dddd		A	dddd
T	tttt																									
D	dddd																									
D	dddd																									
D	dddd																									
D	dddd																									
T	D	tttt																								
	A	dddd																								
	A	dddd																								
	A	dddd																								
	A	dddd																								
42	【IE-V850E-MC, IE-V850E-MC-A】 6,8バイト命令のトレース・データは,不連続な2フレームに出力されますが,クオリファイやセクショントレース時に片方のフレームしか出力されないことがあります。 この場合,逆アセンブル表示は命令が特定できないため"*****"になります。																									
43	スナップとスタブにイベント・リンクの使用はできません。																									
44	外部メモリ(ROM以外)に対して,ソフトウェア・ブレークを設定した場合,プログラムを実行する直前にMMレジスタ等の値が,外部拡張モードになっていることを確認してください。 ソフトウェア・ブレークは,実行コマンドが発行されると,ソフトウェア・ブレークが設定されたアドレスに対し,内部的にソフトウェア・ブレーク専用命令に書き換えて実現しています。そのため,アクセス不可の状態では書き換えができず,画面上ではBマークが表示されていてもソフトウェア・ブレークがかかりません。 * 外部メモリ空間にアクセスする為に設定が必要な周辺 I/O レジスタは,品種により異なります。																									
45	スタブ機能は実行後ブレークモードで使ってください。実行前ブレークモードで使うとスタブ関数を繰り返し実行してしまいます。また,スタブ関数は,jmp [r31]で復帰するため,r31(lp)レジスタの内容はスタブ関数呼び出し前の値に戻りません。																									

No	内容
46	同時に使用できる数*のタイマ・イベント条件を作成・有効化した場合、タイマ・ダイアログの Run-Break 機能は使えません。 *同時に使用できるタイマ・イベント条件数は、IE-V850E-MC, IE-V850E-MC-A, IE-V850ES-G1 は 3 つ、それ以外は 1 つです。
47	インライン展開された関数内にステップインすることはできません。また、元の関数コードもインライン展開した部分と別に生成されるので、そこにイベントの設定をすることは可能ですが、元のコードは実行されませんのでイベントは発生しません。(インライン展開されたかどうかは、ソース・ウインドウの混合表示で確認できます。)
48	'#pragma asm' ~ '#pragma endasm'で囲まれているアセンブラ命令をソース・モードでステップ実行できません。'_asm()'文による記述では、実行可能です。
49	ソース・モードでステップ実行した場合、デバッガは、PSWレジスタのNP,EP,DPフラグをもとに割り込み処理中かどうかを判断しています。そのため、多重割り込みを使用する為などの理由により上記フラグやレジスタを変更された場合は、リターン実行やスタック表示が正常に実行されない場合があります。
50	関数を再帰的に呼び出している(再帰処理によりスタックが生成される)ときリターン実行を行った場合は、最後に呼び出された関数(リーフ関数)の処理が終了する位置にPCが移動します。この症状が出てもその後の動作には、問題ありません。 例) 再帰処理により5回同じ関数が呼ばれる場合。 <pre> 1:main() 2:func01() 関数をコールする。 関数から復帰する。 3:func01() ↓(*) ↑ 4:func01() 5:func01() 6:func01() </pre> 2->3->4->5->6と関数をコールしているとき(*)の部分に(スタックを生成する)リターン実行を行うと、6の処理が終了する位置にアドレスが移動します。6->5->4->3->2と関数から復帰しているときに(スタックを削除する)リターン実行を行うと正しく親関数に復帰します。5は4に、3は2に復帰します。
51	ステップ実行で、ヘッダ・ファイルに記述されているstatic関数にステップインすることはできません。また、#include文の中にステップインやブレークポイントを設定することはできません。
52	2命令同時実行命令がプログラム上に存在する場合、ステップ実行やブレークポイントによるブレークに注意が必要です。下記の例1～例3を参照してください。 <例1> 下記のプログラムで、A番地から1命令ステップした時に2命令ステップします。 A 番地 : MOV r1, r2 A+2 番地 : XOR r1, r2 <例2> A+2 番地に実行前のハードウェア・ブレークポイントを設定し、A 番地から " 継続して実行 " を行った場合、A+2番地でブレークしません。 A 番地 : MOV r1, r2 A+2 番地 : XOR r1, r2 ← 実行前のブレークポイント設定 <例3> A+2 番地に実行後のハードウェア・ブレークポイント、またはソフトウェア・ブレークポイントを設定し、A 番地から " 継続して実行 " をした場合、A+2番地でブレークします。 A 番地 : MOV r1, r2 A+2 番地 : XOR r1, r2 ← 実行後のブレークポイント、またはソフトウェア・ブレークポイント設定
53	プログラム実行中は、ソース・ウインドウ以外の検索メニューはグレー表示になります。
54	【IE-V850E-MC, IE-V850E-MC-A, IE-V850ES-G1】 IE-V850E-MC, IE-V850E-MC-AまたはIE-V850ES-G1を接続した場合には、エミュレータでクロックの通倍設定ができませんので、デバッガでCKCレジスタの設定を行ってください。 デフォルトではデバッガの動作が遅くなります。
55	フラッシュ・セルフ・プログラミングモードのサポートをOnにすると、イベントを予約します。 そのため、ブレーク/トレース/タイマ等がイネーブルになっていた場合は、いったんすべてディセーブルになります。

No	内容
56	フラッシュ・セルフ・プログラミングモードのサポートをOnにすると、次のイベントが予約されます。 そのため、使用できるイベントの数がその分だけ減ります。 ・アクセスイベント 1つ ・実行イベント 1つ ・イベント・リンク 1つ
57	フラッシュ・セルフ・プログラミングモードのサポートをOnにすると、イベント・リンクを1つ予約しますので、その分だけ使用できる区間タイマの数が減ります。また、この予約したイベント・リンクと区間タイマでイベント・リンクの使用可能数を使い切った場合、区間トレースができなくなります。 これらは、区間タイマや区間トレースが内部的にイベント・リンクを1つ使用していることによるものです。
58	フラッシュ・セルフ・プログラミング・インタフェースをエミュレーションする時には、ユーザ・プログラムの実行を内部的に一時中断します。その後、ユーザ・プログラムの実行を再開させますが、区間トレースを行っていた場合は、その時に区間トレースが再スタートします。また、トレース・フル・ストップでトレースが停止していた場合も、トレースが再スタートします。
59	フラッシュ・セルフ・プログラミング・インタフェースをエミュレーションする時には、ユーザ・プログラムの実行を内部的に一時中断します。Run-Breakタイマもユーザ・プログラムの実行を再開させた時に、それまでの測定結果がクリアされてから再スタートします。
60	VPPチェックに関するデバッグを行う時は、デバッグのIORウインドウまたはコンソール・ウインドウのregisterコマンドでVPPビットデータを予め1に変更してからデバッグを行ってください。(なお、デバイス・ファイルによっては、"VPP"というIORビット名が登録されていない場合があります。その場合は、"FLPMC"の値を変更してください。)
61	フラッシュ・セルフ・プログラミング・インタフェースをエミュレーションしている最中は、ID850の操作が重くなります。マウスやキーボードの操作がしばらく保留されたり、ウインドウの更新が遅れたりします。 また、ステータス・バーのRUN/TRC/TIM/COVの表示やツールバーのボタンやメニューの有効/無効なども切り換わりが遅れます。
62	拡張オプション・ダイアログでFlash Self ModeをOnに切り替えた直後は、IORウインドウやウォッチ・ウインドウで"VPP"の値を変更できない時があります。 その場合、一度、ウインドウをRefreshしてから変更するようにしてください。 (なお、デバイス・ファイルによっては、"VPP"というIORビット名が登録されていない場合があります。)
63	コンソール・ウインドウのregisterコマンドでVPPの値を変更する場合、-forceオプションを指定して変更するようにしてください。 (なお、デバイス・ファイルによっては、"VPP"というIORビット名が登録されていない場合があります。)
64	内部ROMを0x100000から配置するモードでの、フラッシュ・セルフ・プログラミングには対応していませんので、内部ROMを0x0から配置するモードで使用してください。
65	内蔵ROM/内蔵RAMの容量がエバチップと実チップとは異なるためセーフ・ブレークが発生しない場合があります。 例えばIE-V850E-MC(-A)を使用時にコンフィグレーション・ダイアログで内蔵RAMサイズを10Kに設定しても実装のエバチップでは12Kが設定されているため、0xFFFFE800-0xFFFFEFFFの範囲にアクセスしてもイリーガル・アクセス・エラーが発生しません。
66	【IE-703002-MC】 ステップ実行で idle モードまたは stop モードに入ることはできませんので、Go 実行してください。 ステップ実行の場合は、idle モードまたは stop モードを解除する仕様になっています。
67	if-else文の条件文で実行されない行を通ることがあります。 このような部分については、ソース・ウインドウで混合表示をして、else文中が実行されていないことを確認してください。
68	ステップ実行は、NMI および各種割り込みは受け付けません。
69	逆アセンブル・ウインドウのラインアセンブルは、CA850 のアセンブラのように命令の最適化を行いません。
70	カバレッジクリアおよびカバレッジサーチの中断はできません。 [補足] IE-V850ESK1-ETは該当しません。
71	カバレッジの範囲選択ダイアログで選択範囲を変更した場合、変更前の範囲のカバレッジデータはクリアされません。 [補足] IE-V850ESK1-ETは該当しません。
72	イベントダイアログのEvent StatusのAccessはRead/WriteのみでFetchは含みません。
73	halt 状態でブレークすると PC は halt の次のアドレスになります。
74	リアルタイム実行では、まずPC位置の命令を1命令ステップ実行し、それからリアルタイム実行を開始します。 そのためタイマの時間測定結果に誤差が生じます。また、オシロスコープやロジックアナライザでプログラムの動作を調べている時など、その位置からGoした時と、1命令前の位置からGoした時とで、観測されるタイミングが異なることがあります。
75	NMI2を持ったデバイス(現状ではSOCデバイスのみ)では、NMI2を入力した場合、ブレーク中であってもユーザ・プログラムのNMI2割り込みルーチンを実行してしまいます。 ブレーク中にNMI2を入力しないようにしてください。

No	内容
76	IE-V850E-MCまたはIE-V850E-MC-Aを使った場合、命令キャッシュ有りの設定では、ユーザ・プログラム実行中にエミュレーションROM/エミュレーションRAM/ターゲット・メモリ領域にソフトウェアブレークポイントを 設定する時、数 μ secでなくもっと長い時間止まります。
77	ユーザ・プログラム実行中にエミュレーションROM領域にソフトウェア・ブレークポイントを設定した場合、設定する瞬間においてフェイル・セーフ・ブレークが検出できません。
78	ユーザ・プログラム実行中にソフトウェア・ブレークポイントを設定した場合、設定する瞬間にイベント・ブレークやソフトウェア・ブレークが発生した場合、ブレークしません。
79	ユーザ・プログラム実行中にエミュレーションROM領域に対してDMMを行なった場合、書き換える瞬間においてフェイル・セーフ・ブレークが検出できません。
80	DMMで書き換える瞬間にイベント検出ブレークやソフトウェア・ブレークが発生した場合、ブレークしません。
81	【IE-703002-MC】 エミュレータの制限で内蔵 RAM 領域をフェッチできない制限があり、内蔵 RAM 領域をプログラム実行すると停止します。 コンフィグレーション・ダイアログで内蔵RAM領域を含む64Kbyte領域をエミュレーションROMまたは、エミュレーションRAMにマッピングしてください。
82	AZ850 を使用する場合は、ID850 の拡張オプション・ダイアログの[Add Up Timetag]をアンチェックにしてください。 積算モードで AZ850 を使用しますと、AZ850 の時間表示が正常に行われません。
83	【V850ES/KF1,V850ES/KG1,V850ES/KJ1】 CPU リセット後の動作クロックが約 500KHz になりますので、ロード・モジュールのダウンロード、メモリの初期化、複写、比較が遅く感じられます。 周辺 I/O レジスタの設定をすることで高速にすることが可能になります。 拡張ウィンドウの Hook ウィンドウに以下の設定を行ってください。(付録・拡張ウィンドウを参照) (1)ダウンロードの高速化 [BeforeDownload]タブに以下の設定を行う <pre> register prcmd 0x0 register pcc 0x0 register pllctl 0x3 </pre> ただし、ダウンロードする前に、周辺 I/O レジスタ PCC、および PLLCTL のクロックが最高速になるように強制的に値を変更しますので、ご注意ください。 (2)メモリの初期化、複写、比較の高速化 [AfterCpuReset] タブに以下の設定を行う <pre> register prcmd 0x0 register pcc 0x0 register pllctl 0x3 </pre> ただし、CPUリセットした後に、周辺I/OレジスタのPCC、およびPLLCTLのクロックが最高速になるように強制的に値を変更しますので、ご注意ください。
84	CA850 V2.60以上の外部変数のレジスタ割り当て機能を使った場合、ウォッチ・ウィンドウでその変数の値の参照と設定ができません。 レジスタ・ウィンドウで操作するか、該当レジスタをウォッチ・ウィンドウに登録して操作してください。
85	PCにアンチウイルスソフトが常駐していると、プロジェクト・ファイルのロードとセーブが著しく遅くなる場合があります。 アンチウイルスソフトの除外設定で".PRI"ファイルを除外してください。
86	RUN中にRRM領域のミス・アライン・アクセスした上位アドレスの値が不正表示になります。 ただし、ブレーク時は正常値を表示します。
87	ウォッチ・ウィンドウにstatic変数を登録した場合、その変数がスコープから外れるとラベルと認識され、デバッガ・オプションのWatch Defaultの形式で表示されます。 回避策:static変数を登録する場合は、ファイル名#変数名の形式で登録してください。
88	特定シーケンスを必要とするI/O レジスタで、直前に実行するPRCMD やPHCMD レジスタへのライト命令をステップ実行した場合や、その命令からRUN した場合、正常にライトされません。